

プラン2025／2年目の取組状況活動

新しい啓発活動に向けた取り組み



「プラン2025」 飲料用紙パックリサイクル 行動計画

容環協では、各会員企業から選出された委員から構成された「総務」「広報」「イベント」「支部組織」の4つの専門委員会を設定し、それぞれ月に1回以上の頻度で会議を行い、さまざまな活動に取り組んでいます。また、これらの委員会に所属する専門委員がメンバーとなっている「企画運営委員会／月次運営委員会」を月に1回開催し、各課題を共有すると共に、活動の進捗確認を行っています。プラン2025で掲げている5つの体系、(1)紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション、(2)回収率向上のための啓発、(3)紙パックの回収・再生インフラの整備支援、(4)次世代を担う子供たちの環境マインド向上、(5)活動への理解促進、活動の公表と評価、にかかわる2022年の主な活動概況は以下の通りです。

(1) 紙パックリサイクルの現状把握、ステークホルダーとのコミュニケーション

紙パックリサイクルにかかわる現状を把握し、取り組むべき課題を明らかにするため、紙パックの回収とリサイクルにかかわる調査、地域毎の回収力分析、古紙業者の紙パック取扱いにかかわる調査を行いました。また、一都六県を対象として、市民のみなさまに向けてリサイクル意識のアンケート調査を行いました。年齢、性別、職業などにかかわらずリサイクル意識は高く、これまでの容環協の活動が奏功していることがうかがわれました。コロナ禍のために中断していた古紙原料問屋や再生紙メーカーの訪問、意見交換なども徐々に再開しています。容環協の専門委員も入れ替わっているため、紙パック回収ややり方にかかわる専門委員向け勉強会も実施しました。

(2) 回収率向上のための啓発

今年度も日本経済新聞社が主催するエコプロ2022へ出展しました。展示については従来からの視点に加え、紙パックのリサイクルは身近で手軽にできるSDGsへの取り組みであることが判るよう、パネルや冊子などの啓発資料を刷新して全面改訂しました。また、情報化社会への対応として、紙パックの特徴、回収の意義や必要性、正しいリサイクル方法などを広く浸透するため、対象層毎の入口を設け、目的のコンテンツがすぐに見つかるよう容環協のHPを改訂しました。Webを活用したタイアップ広告にも取り組み、合計で100万回以上の閲覧数を記録し、Web広告からHPや手開動画への誘導にもつなげました。業務用領域における紙パック回収についても(一社)日本サステ

イナブル・レストラン協会と連携した取り組みを開始しました。自治体指定のごみ袋への啓発広告の掲示、回収ボックスの配布、各地域で開催されるリサイクルや環境にかかわるイベントへの支援と対応も継続しています。

(3) 紙パックの回収・再生インフラの整備支援

地域毎の回収力分析調査によって各地域や自治体が抱えている課題を抽出しています。コロナ禍や台風禍のために数年間中断していた紙パックリサイクルにかかわる地域会議については2023年から再開し、千葉県を対象として関連省庁や県内の自治体を招いて会議を開催し、課題や情報の共有を行います。また、紙パックのリサイクルにかかわる新たな展開としては、ラミネートされているポリエチレンのマテリアルリサイクルやケミカルリサイクル、再生パルプの布や繊維などの紙以外の製品への応用などについての情報収集や試作を進めています。店頭回収、拠点回収、自治体での行政回収などの拠点をまとめたマップの作成も推進しています。

(4) 次世代を担う子供たちの環境マインド向上

今年度も紙パックを活用した工作コンクール「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」を開催しました。今回は紙パックのリサイクルにかかわる各都道府県の各校の現状を調査する目的を兼ねて、募集要項を全国全ての小学校へ送り、例年の倍近い4,000以上の作品が寄せられました。入賞作品についてはエコプロ2022で展示し、昨年はコロナ禍でリモート化していた表彰式も、本年度は作品を制作した児童や保護者の方を招いて実開催することができました。エコプロ2022の出展者ページには児童に向けた環境学習のページを設け、来場頂いた子供達に丁寧な説明を行いました。小学校や中学校での出前授業については、川崎市を中心として、自治体、市民団体、教育委員会、学校と連携し、コロナの感染防止に細心の注意を払いながら、対面での活動を再開しています。また、遠隔地への展開やWeb化に向けて、授業内容のDVD化などの取り組みを進めています。

(5) 活動への理解促進、活動の公表と評価

以上、ご紹介いたしました容環協の1年間の活動のトピックスを総括し、年次報告書としてまとめ、関連各団体へ公表すると共に、行政やステークホルダーの方々へ活動の概要を紹介し、意見を交換する場を設けています。消費者意識調査による定点評価やアンケート結果などをもとに客観的、数値的な視点で自らの活動や成果を振り返り、課題や問題点を抽出し、次年度の活動へ反映させるよう努めています。

飲料用紙パックの リサイクルに関する インターネット調査を 実施しました！

【飲料用紙パックリサイクル行動計画調査報告書より】

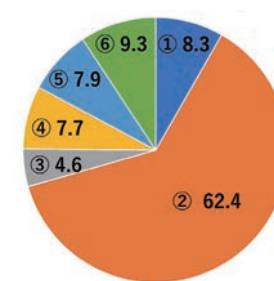
紙パックリサイクルに対する消費者行動パターンは、下枠の6つのセグメントに分類されると考えられます。セグメント構造を把握するため、家庭で紙パック飲料を月1回以上購入している15～79歳男女合計2,000人(1都6県)を対象にインターネット調査を実施しました。

- ①リサイクルをしており、且つ、周りにも推奨している人
- ②リサイクルをしている人
- ③やり方は知っていて今後したいと思うが、何らかの原因でできていない人
- ④今後したいと思うが、具体的なやり方を知らない人
- ⑤リサイクルできることを知っているが、したいと思わない人
- ⑥リサイクルできることを知らない人

調査の結果、紙パックを購入する家庭のうち約70%がリサイクルをしていると回答しました。④に分類された人に対して、何があればリサイクルできるか聞いたところ、約半数が「ごみ集積所に紙パック専用の置き場があったら」と回答しました。また、紙パックリサイクルを最近1年以内に始めた人にそのきっかけについて聞いたところ、学校や地域の人々から勧められたりする他、SNSや動画サイトなどインターネットを通じて始めた人の割合も高い傾向でした。

今回の調査を通じて、リサイクルをしている人の割合は非常に高いものの、①や②以外に分類された人に対して、リサイクルしたいと思う環境をいかに作ることが重要であると感じました。容環協は、客観的・数値的な視点で課題や問題点を抽出して、次年度以降への活動へ反映させるとともに、新しい啓発方法にも挑戦していきたいと考えています。

紙パックリサイクル状況調査結果
6セグメント分類（単位：%）
調査会社：株式会社・マーケティング



一般社団法人 日本サステナブル・レストラン 協会(SRA-J)と連携しました。

【SRA-Jとの連携活動】

容環協は2022年度より、SRA-Jと連携し、これまであまり対応が進んでいなかったレストランをはじめとした業務用領域での紙パック回収への取り組みを開始しました。SRA-Jの加盟レストランであるBOTTEGA BLU.(兵庫県芦屋市)、BAR 芦屋日記(同)、PIZZERIA GTALIA DA FILIPPO(東京都練馬区)、お野菜料理ふれんちん(東大阪市)を拠点とし、行政や商工会にもご協力頂いて5月から8月にかけて紙パック回収の実証実験を行うとともに、8月にはSRA-Jが設定し、古紙問屋である山田洋治商店と容環協がパネラーとして登壇するzoom配信のウェビナーにも対応しました。11月にはSRA-Jが食の持続可能性のフレームワークをもとに、加盟レストランのサステナビリティを評価して表彰する式典である「FOOD MADE GOOD Japan Awards 2022」に協賛し、容環協の冠賞として「サーキュラーエコノミー賞」を設け、自然派イタリアンのBOTTEGA BLU.を選出しました。食材を届ける容器包装である紙パックには高品質で衛生的な紙が使われていますが、レストランを始めとした飲食店では食材ロスや廃棄量については目が向けられている一方、包装容器のリサイクルについてはあまり意識されていない側面があります。同店の実証実験における紙パックの回収率の高さに加え、芦屋市や商工会を巻き込んで活動するなど、行動力と情報発信力が優れていたことが受賞の決め手となりました。今後とも容環協では他団体や自治体と協働し、様々な領域における紙パック回収率向上に向けた取り組みを進めます。



西武池袋線石神井公園駅でのSRA-Jによる啓発のようす



サーキュラーエコノミー賞受賞式のようす

リサイクル促進意見交換会

牛乳パックリサイクル出前授業



関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【第34回飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会】

2022年3月1日に乳業会館にて、農林水産省食品ロス・リサイクル対策室、同牛乳乳製品課、経済産業省素材産業課、同資源循環経済課、環境省リサイクル推進室、自治体関係者、市民団体、古紙回収業者、製紙メーカーなど計約80名申し込みのもと、開催しました。

最初に容環協の原田会長(当時)から、「昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大防止のためオンライン開催で通常よりも多くの方に参加いただきました。プラスチック資源循環促進法を見据えて当協議会の活動も資源循環全体への貢献をしながら進めていきたい」との挨拶がありました。農水省から、「プラスチック代替としての紙が注目されており、紙パックは紙の資源として回収・有効利用が期待され、この意見交換が実り多いものとなるように」との挨拶がありました。

次に取組状況報告として容環協から、組織概要説明と2020年度の回収率の概要説明を行いました。紙パック全体の回収率は目標の50%に対して38.8%となり、残念ながら、4年連続で減少となったこと、これは数年にわたる古紙市況の悪化やリサイクル時に出るラミネートプラの処理費用の高騰などとともに、コロナ禍による回収中断なども原因になっていること、回収率向上に結びつけることができなかった自主行動計画「プラン2020」の課題を踏まえて、5つの柱からなる新規中期計画「プラン2025」を策定した経緯などの報告を行いました。続いて4つの専門委

員会の活動状況を各委員長から報告しました。

調査会社からは、2020年度の回収率調査結果の詳細内容として飲料用紙パックの回収率は38.8%であったが、他の古紙に計上されたものを分子に加え、まな板などに再活用されたものを分母から引くと41.1%と試算されること、学乳パックや集団回収の回収量が減少したこと、市町村回収や集団回収の取引価格が下がっていることなどの説明が行なわれました。

後半の意見交換では、容環協より3R推進団体連絡会の調査結果を引用し、市民の意識について2009年に環境問題を意識している方が90%以上であったが、2021年には65%に下がったことを指摘し、対策としてSNSを利用した情報発信や紙パック回収拠点の地図上へのマッピングの取り組みを紹介しました。市民団体からは市民の意識だけではなく、呼びかける側の熱量の違いもあるのではないかと意見がありました。次に学乳パックの回収低下について意見交換し、東京学乳協議会からは牛乳納入業者が紙パックを引き取れない状況を説明し、古紙回収業者からはリサイクル率低下を打開する方法は教育であり、東京23区において児童が一生懸命取り組んでいることを手本に他の自治体も見習っていけばよいとの意見がありました。また、今回はオンライン会議システムの投票機能を利用し、選択回答方式で参加者の意見を伺うことも試み、工作やまな板などへの再活用についての意見を伺いました。製紙メーカーからは純パルプ製品の需要が伸び、再生品が伸びない状況への危機感とともに、業界が一緒になってリサイクルを進めていく必要性の訴えがありました。

引き続きコロナ禍において地球環境問題・資源循環への対応が求められる中で紙パック回収に携わるステークホルダー間のコミュニケーションがよりいっそう重要と再認識いたしました。



容環協からのリモート発信のようす



原田会長(当時)の挨拶

市民団体や自治体と連携し、
市内全校のリサイクル化を目指し
出前授業に取り組んでいます。

【神奈川県 川崎市立鷺沼小学校】2022年1月17日

児童からの質問では「紙よりガラスびんを再使用した方が環境にやさしいのではないですか?」「なぜ外国の紙を使っているのですか?」など今回の授業で疑問に感じたことなど、環境問題への意識の高さをうかがわせる質問もありました。(小学校5年生4クラス156名受講)



リサイクルの説明

【神奈川県 川崎市立下河原小学校】2022年6月20日

授業の体験コーナーでは、角材や端材などのイメージがわかる丸太の模型、チップやパルプの実物、紙パックの構造の模型、紙パックをリサイクルして作られたトイレペーパーなどを興味深く観察し、色々な質問がアがりました。(小学校5年生1クラス38名受講)



説明を真剣に聞く児童

【神奈川県 川崎市立東橋中学校】2022年7月8日

リサイクルが地球環境の保護や循環型社会への構築につながる大事なテーマであること、更に一人ひとりが身近にできる環境・社会貢献活動を意識し、自ら考え、行動し、他の人と協力・協働する大切さを学んで頂きました。(中学校2年生8クラス320名受講)

出前授業講義内容

- ・講義 「3Rについて」「牛乳パックのリサイクル方法とメリット」
- ・視聴 DVD「牛乳パックン探検隊」
- ・質疑応答、他校の事例紹介(ビデオ)

協働実施団体

- ・3R推進プロジェクト(川崎市の市民団体)
- ・グリーンコンシューマグループかわさき(川崎市の市民団体)
- ・川崎市環境局(減量推進課、地球環境推進室)

【神奈川県 川崎市立宮崎小学校】2022年1月21日

授業の感想として、「牛乳パックをリサイクルするとCO₂の排出量が減ることを知り、リサイクルを始めたいと思った」など大変力強い声を児童から聞くことができました。(小学校5年生4クラス179名受講)



容環協による講義のようす

【神奈川県 川崎市立西御幸小学校】2022年6月23日

給食で飲む牛乳パックなら18枚でトイレペーパーが1個できることを聞いて、みんなビックリしていました。授業後の感想では、「自分たちもリサイクルを始めたい」という意見が多数あげられ、非常に頼もしく感じました。(小学校5年生2クラス43名受講)



容環協による講義のようす

大きな体育館での講義

エコプロ2022

牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール



連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロ2022】12月7日～9日

東京ビッグサイトで開催された日本最大級の環境イベント「エコプロ2022」に本年度も実展示にて出展しました。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、ブースについては博物館や美術館のように来場者が自由に展示物を閲覧できる設営とし、SDGsの視点で制作した新6枚パネルの掲示、容環協が取り組んでいる活動の紹介、2021年度紙パックの回収率の速報、大型、中型、小型の計9台のモニターによるDVDや動画の放映、「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」受賞作品の展示、全国の乳業メーカーから提供頂いた紙パックの掲示などを行いました。

開催期間中の累計来場者数は約61,500名であり、そのうちの1,707名の方(累計来場者数の2.8%に当たります)が容環協ブースに足を運んで下さいました。

ブース内では、再生紙工場の動画を見た方から「トイレトペーパーができるまでどのくらい時間がかかるのですか?」「ジャンボロールの重さはどのくらいですか?」などの質問が、2021年度紙パックの回収率(速報版)パネルを見た方から「回収率ってこんなに低いのですか?」などの質問が寄せられ、専門委員が対応しました。

ご来場頂いた方々には、紙パックをリサイクルして作ったウェットティッシュや新たに制作した啓発冊子「地球に優しく紙パックのリサイクル」をお渡しし、加えて小学生や中学生には「紙パックで地球にやさしくNOTEBOOK」学習帳を配布しました。今回の展示を通じて、「紙パックのリサイクルは身近で手軽にできるSDGsへの取り組み」であることを、多くの方々にご理解頂いたものと思います。



来場者で賑わう容環協のブース



新たに作成したパネルと小型モニター



乳業メーカーから提供頂いた紙パックの展示



エコプロでの受賞作品の展示

真崎李奈子さんの作品
『絵が変わるミルクecoポスター』
が見事最優秀賞に。

22回目となる「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」が開催され、全国の小学校より4,127作品の応募がありました。いずれも力作ぞろいの中、厳正な審査の結果、受賞7作品が選ばれました。入賞された皆様、おめでとうございます。

《受賞作品》

- ◆最優秀賞
『絵が変わるミルクecoポスター』
真崎 李奈子さん(千歳市立末広小学校6年)
- ◆優秀賞 『あおいほうせき』
森下 璃人さん(磐田市立豊岡南小学校1年)
- ◆優秀賞 『諏訪の竜神様』
伊藤 樹莉さん(岡谷市立長地小学校4年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞
『緑～鳥の巣み家～』
小林 葉子さん(大阪信愛学院小学校5年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
『エコ☆イカほうき&ちりとりセット』
畠中 実土さん(はつしば学園小学校3年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞
『フルーツオセロ』
小山 千緒さん(岐阜市立本荘小学校2年)
- ◆日本乳業協会賞
『ぎゅうにゅうだいすきうしさんありがとう』
星 こころさん(久喜市立菖蒲小学校1年)



審査のようす

最優秀賞には、北海道の6年生真崎李奈子さんの作品「絵が変わるミルクecoポスター」が選ばれました。牛乳紙パックをスパンコールのように細かくカットして台紙に縫い付け、なでる向きによって絵柄が変わる斬新なアイデアと、綿密で繊細な作り込みが審査員全員から高く評価されました。

本年度は「エコプロ2022」の容環協ブースにて3年振りに受賞作品を展示しました。来場された方々からは「紙パックを利用してこんな素晴らしい作品が出来るなんて凄い」という感嘆の声が上がっていました。また、表彰式も東京駅前のコンファレンススクエア エムプラスにて開催され、審査委員長の東京国立博物館・藤原館長、実行委員長の容環協・柳田会長をはじめ、審査委員の方々から受賞者に賞状・トロフィー・副賞が贈られました。

受賞作品は容環協の小学生向けホームページ「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。



最優秀賞『絵が変わるミルクecoポスター』



東京丸の内の会場で行われた表彰式

ステークホルダーとの意見交換会

その他の広告・啓発活動



紙パックリサイクルの現状と課題について伺いました。

【株式会社山田洋治商店】2022年2月7日

去年に引き続き、今年もコロナ禍の状況下で古紙問屋とのオンライン意見交換会を実施しました。

紙パックのリサイクルを開始した1984年当時は製紙メーカーの丸富製紙と協力して活動し、世の中は運動を牽引した主婦を中心に熱量があったが、現在はそれが下がってきたことが残念であるとの意見を伺いました。業界のノウハウをつたえていくために、容環協も紙パックリサイクル啓発活動に注力する決意を新たにしました。

【丸富製紙株式会社富士根工場】2022年10月25日

例年、静岡県富士市にて製紙メーカーや古紙回収業者を招いて意見交換会を開催する際、新人専門委員向けに行っていた製紙メーカー工場見学を10月25日、久しぶりに実施しました。

12月に開催されるエコプロ2022で投影する動画の撮影を行うことを主目的とした今回の見学会は容環協より6名と人数を制限して実施しました。

紙パックの溶解を行うパルパー、上質紙を離解する地球窯、パルパーから取り出されたポリエチレンは廃ポリ焼却炉で燃料として燃やされ、発生した蒸気は熱エネルギーとして工場内で使用、再生パルプは抄紙機でジャンボロールに巻き上げられ、ジャンボロールを小巻にし、トイレットペーパーを製造、袋詰め・箱詰めしていく工程を現場担当の丁寧な説明を聞きながら3時間以上かけて見させていただきました。

容環協として丸富製紙富士根工場の工場見学は、2018年7月以来、4年ぶりとなります。当時は倉庫に紙パックが沢山有り、箱詰めされたトイレットペーパーが出荷ヤードに山積みになっていた。しかし、今回の見学では古紙不足の影響でしょうか、紙パックも出荷ヤードのトイレットペーパーも以前に比べると少ない状況でした。

意見交換の場でも工場長から「古紙不足の状況をなんとかしたい。紙パックリサイクルの推進を今後も宜しくお願いします」との依頼がありました。

今回の工場見学により、エコプロで投影する新しい動画が作製できたこと、また工場見学・意見交換を通じて再生紙メーカーとの良い関係を築けたことは良かったと思います。



断裁され、勢いよく運ばれるトイレットペーパー



以前と比べて少ないヤードの紙パック

【全国乳業協同組合連合会】2022年10月20日

学乳パックのリサイクル推進には、供給者側の理解も欠かせません。

今回、全国乳業協同組合連合会(牛乳・乳製品の製造を行う中小規模の事業者で組織した都道府県単位の事業協同組合)の研修会で講演を行いました。製造者の立場として紙パックがリサイクルされるまで責任を持とうという訴えに多くの賛同をいただきました。

(各都道府県の理事長・事務局長など30名)



講演のようす

【WebやSNSを活用したタイアップ広告】

紙パックの特徴、リサイクルの意義、正しい分別方法、再生されて新たに製造される製品群などを多くの方々へ幅広く伝達するため、2022年から、WebやSNSを活用したタイアップ広告を始めました。これまでに、「リサイクルの意義と必要性」「正しい分別の方法」「開き方と洗い方」をテーマとした会話形式のタイアップ広告を公開し、GoogleやYahooなどのメディアにも取り上げて頂いた効果もあり、スマホでの閲覧を中心として合計で100万回以上も閲覧して頂くことができました。Webタイアップ広告には容環協HPや手開動画へのリンクも貼っており、HPの訪問数や動画の閲覧数は昨年までと比較して飛躍的に伸びています。今後も、出前授業、イベント支援、セミナーや講習会、コンクール開催などの特定の方々に向けた対面での取り組みと、WebやSNSを通じた幅広い方々に向けた情報発信の双方を継続し、紙パックの回収やリサイクルは地球にやさしい誰もが身近で手軽にできるSDGsの取り組みであることを、わかりやすく伝えてゆきます。



紙パックをリサイクルに出す女性同僚の『ひと言』に、驚愕

公開：2022-02-24
更新：2022-02-25
提供：全国牛乳資源循環協議会
By: grape編集部

飲料に入れられる『紙パック』。牛乳やジュースなど幅広い飲料に使用されている容器のため、多くの人が自然に目にはいるでしょう。そんな紙パックが、リサイクルに適した資源であることをご存知ですか。



紙パックの開き方を教わった女性早速試してみるが…?

公開：2022-09-28
更新：2022-10-11
提供：全国牛乳資源循環協議会
By: grape編集部

牛乳を始め、ジュースやお茶など、さまざまな飲料に利用されている紙パック。みなさんは、飲み終わった後、どのように処理をしていますか。

【市町村のごみ袋へ広告掲載】

2019年から、各市町村が指定している「可燃ごみ袋」へ「紙パックは捨てずにリサイクル」のメッセージを掲載し、広く市民の方々に啓発する取り組みを進めています。2022年度には八王子市、三鷹市、羽村市の3市へ広告の掲載を申請し、全て承認されました。また、三鷹市と羽村市については、市のHPの「暮らし」や「ごみの出し

方」のページに容環協のHPへリンクするバナーを貼って頂きました。3市を合わせた人口は約80万人にもなります。

ごみ袋への広告掲載は、行政にとってはごみが削減されて焼却施設への負荷が減る、市民のみなさまにとってはかさばる紙パックを有料のごみ袋に入れなくて良い、容環協にとっては紙パックリサイクルの促進につながるという、まさに「三方良し」の取り組みです。今後とも容環協では市民のみなさまに向けて、紙パックリサイクルの意義を伝えていきます。



各市町村のごみ袋

【日本乳業協会と連携した取り組み】

(一社)日本乳業協会では各都道府県協会や乳業メーカーと連携し、消費者の皆様へ日本の酪農の現状や牛乳の持つさまざまな価値をお伝えし、牛乳価格等の値上げによる消費の減退を少しでも緩和するため、2022年10月から11月にかけて全国約40か所で消費者向け理解醸成&消費拡大キャンペーン「牛乳でみんな元気に。」を実施し、紙パックの牛乳を無料配布しました。この取り組みのなかで、牛乳の飲用を通した環境への貢献についても意識して頂けるよう、「地球にやさしく紙パックのリサイクル」の冊子についても配布しました。



ある会場での紙パック牛乳と資料配布のようす